

第 118 回日本精神神経学会学術総会へのご招待

川崎 弘詔 Hiroaki Kawasaki

日本精神神経学会理事,
第 118 回日本精神神経学会学術総会会長

この度、第 118 回日本精神神経学会学術総会を 2022（令和 4）年 6 月 16 日（木）から 18 日（土）の 3 日間、福岡市（福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホール）にて開催させて頂くことになりました。

総会副会長として、九州精神科病院協会会長の富松愈先生および不知火病院理事長の徳永雄一郎先生のお二人にご協力頂き、また、コアプログラム委員会のメンバー（総計 26 名）として、福岡県 4 大学医学部精神医学教室の教授、准教授、医局長および福岡県診療所協会、九州地区代議員の先生方にもご参集頂き、福岡県を中心にオール九州体制を作り総会準備を致しております。また、プログラム委員会のメンバー（総計 118 名）として、全国各地域の代議員、精神医学講座担当者、日本精神科病院協会、日本精神神経科診療所協会の先生方にご協力頂いております。

前回の福岡での総会は、九州大学精神病態医学教室の神庭重信教授が会長として 2013 年 5 月に開催された第 109 回であり、今回は 9 年ぶりの福岡および九州開催となります。

2020 年の初頭から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け、ほぼ 2 年間、大規模な集会の開催が困難となっておりましたが、2021 年 9 月 30 日に緊急事態宣言が解除されて以降、日常生活上の制限も緩和され、現地開催への希望がみえておりました。しかし、この感染症の勢いは衰えることがなく、現在（2022 年 1 月）、全世界でオミクロン株感染例の報告数が増加している状況です。このことを踏まえ、第 118 回福岡総会は第 116 回、第 117 回に続き、ライブ、オンデマンド、現地開催のいずれの形式でも行えるよう準備致しております。

COVID-19 の出現は、世界のさまざまなものやことおよび人に影響し、われわれを取り巻く環境が大きく変化しています。精神医学の分野においても、コロナ感染症を要因とする重要かつ新たな課題が多く、情報によって日々明らかにされ、われわれの認識も変化しています。これらの変化の本質を探究し、人のこころや社会に対する影響を注意深く考えなければなりません。これらの変化は、COVID-19 によるものとそうでないものへ大きく 2 つに分けて考えることもできるでしょう。

現代の社会は、情報通信ネットワークや人工知能といった ICT（information and communication technology）によるインテリジェント化を背景として、内閣府が提唱する情報社会（Society 4.0）から未来社会（Society 5.0）を実現しようとする過程にあり、加えて、根底にある資本主義の成熟、グローバル化などの大きな社会変化により、こころが最大限の適応を要請されている状況といえるでしょう。

感染症の影響としては、対人接触の制限によるコミュニケーションの質の変化、感染症に伴う不安・抑うつ・死別など、近年減少していた自殺の増加、乳幼児を含む若年者、配偶者、高齢者、被介護者に対する虐待の増加、医療スタッフのメンタルヘルス、社会を覆う全般的な不安など思いつくだけでも多くの事象が挙げられるでしょう。

精神医学の分野においては、薬物療法を含む身体療法の発展、生物学的精神医学分野の知識の増加、精神療法の概念や技法の変化、スティグマ、同意取得、人権などを含む精神医療を取り巻く社会的、経済的な環境の変化、新専門医制度の課題などがあり、事態は大変複雑になっています。

本学会は、精神医学分野およびその関連領域についての幅広い知識や情報を提供し、精神科医の研鑽の場として機能してきました。また、精神科医療スタッフや当事者達との討議や交流を深めることによって、精神科医療者としてのアイデンティティを確立することにも貢献してきました。専門医をめざす若手精神科医にとっての臨床修練の場であり続けることは大変重要なことと考えます。

総会テーマは、「変わりゆく世界とこころ、見つめる精神医学」と致しました。現時点で、口演・ポスター（350 演題）、シンポジウム（142 演題）、教育講演（15 演題）、ワークショップ（15 演題）などが集まっており、特別講演、先達に聴くなどの企画を準備致しております。

今回も、現地に参集することは微妙な状況かもしれませんが、ライブ、オンデマンド配信などのオンライン技術を通して、福岡から精神医学の発展に貢献したいと考えております。

ぜひ多くの方にご参加頂けますことを、心よりお願い申し上げます。